

「フィロス」はギリシャ語で友情・友達の意

## 伊勢市国際交流協会総会開催される

平成 15 年度伊勢市国際交流協会総会が 6 月 21 日(土) 13 時より伊勢シティープラザにて開催されました。

平成 14 年度事業報告、同収支決算報告、規約改正、役員改正、平成 15 年度事業計画案、同収支予算案が報告及び可決了承されました。

会長挨拶の後、講師小出政夫氏(元シニア海外ボランティア)による講演会、演奏会(モダンタイムス)が開催され、午後 4 時まで会員交流会を楽しみました。(講演会内容は後述してあります)

## 遠い国が、近くに

伊勢市長 水谷 光 男

私は 8 月、三重県市町村振興協会主催の海外調査研修視察団に参加、北欧 3 カ国(オランダ、ロシア、ノルウェー)を訪ねました。3 カ国を世界地図でみると、オランダを除き、北極圏に近いさい果ての国。地球儀をみると、緯度はカムチャッカ半島の北方、アラスカと同緯度の位置にあり、オーロラの北極圏に近い白夜の国でした。案内では夏でも朝夕は冷えるのでセーターを用意とありましたが、猛暑で半袖姿、時にはうちわが必要でした。

関西空港を飛び立ってオランダ・アムステルダム空港まで約 11 時間(時速 1,100 キロメートル、高度 12,000 メートル、外の気温マイナス 55 )。

最初の訪問国オランダはチューリップと風車で代表される美しい田園地帯。面積は日本の九州ほどの大きさで海拔 0 メートル。長年海を埋め立てる干拓事業で水との戦いの歴史でした。人口も約 1,600 万人、従って人口密度はヨーロッパ高く、大気汚染防止対策の先進国。そのためエコタウンを目指す「アメルフォール市」のニューランドを視察。住家、公共施設はすべて太陽光発電システムで運営管理され、さすがエコタウンの先進都市だと感心しました。

次いで、ロシア第二の都市サンクト・ペテルブルグ市(旧名レニングラード、人口 500 万人)に。現大統領プーチンの出身地で、建都 300 年記念事業が行われていました。帝政ロシアの首都として栄えた都市の栄光と歴史、また革命、戦争の退去を持ち合わせた歴史と芸術に満ちた都市でした。ロシア革命の父といわれる「レーニン」にかかわるさまざまな展示室、また世界を代表するエミルタージュ国立美術館、エカテリア宮殿など視察。今、この時も変わりつつある歴史と高い芸術文化の重みを感じる巨大な国でありました。

最後は、ノルウェー・オスロ空港へ。所要時間は約 4 時間 50 分。雄大かつ繊細なフィヨルド海岸と白夜のノルウェーは手ずかずの大自然、巨大な氷河が横たわっていました。暗くなるのは夜 11 時、朝は 4 時頃に明るくなりました。オスロでは、「グリーン・ツーリズム」を実行する農家を訪問、都市と農村、農産物の流通状況を調査しました。また、スカンジナビア半島を横断してベルゲン市へ。十六世紀のハンザ同盟商人住居や倉庫など、世界文化遺産指定地帯を視察研究しました。また、作曲家エドワード・グリーンの住居跡と職場では、彼のピアノで、グリーンの作品を日本の美智子皇后

が演奏されたと伺い感動しました。

今回の訪問視察で感じたことは、遠い未知の国であっても、見聞して知ることによって近くになり、近親感を覚えたことでした。また、3カ国は国民総生産（GNP）はそれほど高くはないが、過去に集積された社会資本や、高い豊かな文化度によって、人々が自分の国の歴史と文化に誇りを持ち、余りにも自分たちの生活を楽しんでいる姿が印象的でした。経済優先、物資万能主義にさいなまれて人間として大切な心とか、ゆとりを失い、あわただしく追っかけられるような私たちの生活が反省させられました。

## 長江三峡の旅に想う

会長 岩本 忠

「揚子江」にダムが出来ると。そのうちに水位があがって『三国志』の舞台になった歴史的遺跡が見られなくなってしまいうらしい。そのようなことを数年前に聞いた。アイルランドへ行って、氷河時代に北半球をおおう氷の塊がその巨大な力をもって断崖絶壁をつくり果てしない岩盤の平原に爪跡をのこしていったのを見たときであった。自然の力は実に強力に雄大である。しかし、その強大な自然に中国の人力がダム建設で挑むという。それをこの目で見てみよう。それに水没する史跡も見ておきたい。中国へ行こう。そこでは何か新たな知見がえられるのではなからうか。そういう気持ちになったのである。

揚子江は、中国で長江という。チベット高原に源を發し、その長さは6,300キロ。ダム建設により水位は175メートルも上昇し、そのダム湖は、三斗坪(宜昌の少し上流)から豊都のさらに上流まで、約570キロにおよぶ。歴史物語『三国志』は書物や演舞でみて、部分的には知っていても、全体像は知らず、場所の感覚ができていない。現地へ行くべし。百聞は一見に如かずである。

その長江三峡の川下り遊覧が昨夏(2002年8月)に実現した。翌年春にはダムを閉じて、水位があがり、見るべきところは水没してしまう。冬は気候や日照の条件がわるくて、この夏しか行く機会がないことになる。そこで旅行社に予約をいれて、次のような計8日間(船中2泊)の旅にした。即ち、

- ・伊勢を出発して、名古屋から空路、上海経由の重慶ゆき。
- ・重慶で遊覧客船に乗り、長江下り豊都・鬼城をへて白帝城に登り、「くとう峡」と「う峡」を過ぎ、「西陵峡」を経て、長江三峡ダムに到る。
- ・宜昌にて下船し、バスにて沙市・荊州を見学してから、武漢へ。武漢市内と黄鶴楼、博物館を見学。飛行機で上海に戻る。
- ・最終日は、午前中、上海の豫園・博物館など市内観光をして、午後空港に向かい。上海から名古屋小牧空港に着き、夜10時に伊勢帰着。

ここに今回の旅で訪れた上海と重慶と三峡をもとに寸感を記すことにする。

### 上 海

往路上海で国内便に乗り換えるのに市内に入り、黄浦江の外灘(ワイタン;旧名バンド)で一茶休憩した。筆者は1977年(昭和52年)に中国へ行って以来、毎回上海ではここを訪れている。

初めて中国へ行ったとき、黄浦江の曲り角の外白渡橋を渡ったところにある上海大廈(British Mansion)に泊まったので、そこはいつも懐かしい気がする。当時、中国は毛沢東の後を華国鋒が継いでいた。人民服の男女が質素にして、外灘のベンチに人目を避けて座っていた時代である。

今は、浦東地区に遊園地並みの楽しいデザインの建物が並び、黄浦江には空港に向かう大きな橋がかかり、高速道路網(混雑していてスピードは出ない)がどんどんと造られている。大した社会資本建設である。しかし、市内の小道や、歌に謳われた四馬路(スマロ)や豫園などは、超現代的上海とはウソのように昔日の面影を残している。道行く人たちの服装も昔風から超ミニまで多様で、歩く速さものそりのそりからハイヒールサンダルを蹴って歩くのまであり。大都会上海には過去と現在と未

来が同居しているとの感がある。

## 重慶

重慶は、上海から飛行機で2時間、随分と奥地にある。ところが、この重慶の人口がなんと3,000万という！中国一、いや世界一である。大都市上海が定住者1,600万に出稼ぎ労働者300万で1,900万であるのに対して、この数である（もっとも、中国統計数値の信頼度は微妙なところではあるが、上海との対比という点では有効であろう）。

最近十年間、中国は経済変革で、山間部の人口が沿海部に大挙移動をはじめた。重慶は、長江と嘉陵江との合流点で太古から交易の要所であるためにその中継地点となり、昨今の経済構造転換期に奥地から人が沿海部から職がこの地に集中したものであろう。経済の動脈である長江の意義は大きい。そういえば、日中戦争中、この重慶に国民政府の臨時首都となったことがある。様々な意味で要所である。

家並みは私たちが上海の租界地でよく見た、かつての上品な2階建て風の家屋が、今は朽ち果てんばかりになっていて、その軒先に隣接して35階、40階建ての超高層ビルが次々と立っている。遅い夕食に辛い辛い四川料理を食べて、これが中国かと疑うほどの超高級ホテルに投宿した。

重慶は二つの川の流れが陸地を深く掘り下げて、川面におりるのに高低差100メートルほどの坂道をくだらねばならない。そこで荷物を運ぶには車は危険であり、人が天秤棒で前後に荷をかけてかつく。早朝の急斜面には何百人という男たちが手に棒をもって仕事を待つ。急流の川面には船を固定してならべて板を渡し、その船橋をわたって、長江を往来する大船まで、天秤棒がまた行き交うのである。遠くから眺めていると、順序良く勤勉な運び手が列をなし、その見事な物資の流通はまるで蟻の行列である。

他方、川霧の薄れる台地の上には、何十もの高層ビルが勢いよく林立していて、台地と台地とには幾つもの大きな橋がかかっている。この高度建築技術と天秤棒の行列との混在が今日の中国の姿であると見えた。

## 三峡ダムの建設

重慶で遊覧客船「北斗号」に乗る。これから2泊3日は、力強く滔滔と流れる長江の流れにあわせて下る船旅であった（ここで三峡のすばらしさと太白岩、張飛廟、劉備・諸葛孔明の白帝城、屈原祠など史実、史跡の人文的記述をするべきであるが、紙数の関係でそれは別の機会に譲ることにする）。

長江兩岸の遙か上のほうに新設の道路が果てしなく続いている。時折、白壁の近代アパートが群れて並んでいる。それはダム建設で水位上昇した際の移転先である。山には喬木がないから、私たちの船からもよく見える。住民たちは、より下流の町に移るか、この新上村に登るかを強制されているという。その数、百万人を超えるという。

鬼城（豊都）でも白帝城の下町でも、下船して徒歩見学する古来の町並みに「水位ここまで」という白線が記されているのを見た。その水位差は175メートル。この線より下は水に没するというのである。その水没の町々は、まだ住民が生活しているのに町の整備は放置された様子であった。

三峡ダムが前方に霞んで見えてより約一時間航行して、船は建設中のダムの一角を通過した。ダムは実に大きな建造物である。この大規模な河川工作により発電と水利・水力利用のある反面、各種の波紋が予想される。まず、その広大な流域に水蒸気があがり、気象に変化をきたすであろう。降雨量が増大すれば、日本の国土のように草木が成育するかもしれない。動植物の生態循環が変わり、産業や経済に変化をもたらすかもしれない。さらには、ダム破壊をたくらむ外敵を想定して、対ミサイル施設が計画されているというから、軍事的力学が働きだすかもしれない。

ドイツの友人がいった。ヨーロッパに比べて、アジアは山野のスケールが大きい。欧州最高のモンブラン山は4,000メートルであるが、ヒマラヤには8,000メートル級が連なっている。平野にしても然り。そして、ドナウ川やライン川にくらべて長江や黄河、ガンジスやメコンの大きいこと、と。

まったく、その流域の人々の生活はその大自然になじんで成り立っている。中国あるいはアジアは、人力が自然に挑み、自然に合わせながらその恵みを自らのものとして暮らしている。それは幾世代にもわたる多くの人々の努力の賜物である。これがナイル川上流やアマゾン川になると、いまだ人力の手に下っていないのが現状である。

私たちの自然環境との共存のあり方にも、この巨視的視点から一段の工夫が得られるのではなからうか。

## サモアでの私の体験より H.6.6~H.8.6

講師 小出 政夫さん(元シニア海外ボランティア)

インドネシアへ派遣のJICAの知人から船員教育があるが参加しないかと誘われ、シニア海外ボランティア一期生として南太平洋の島国サモアの国立海洋訓練センターへ出かけることになった。(個人的見解、価値観の反映と考えると)

私の所属の日本郵船K.K.では外国とくにフィリピン、インドネシア、マレーシア等東南アジアの職員採用が盛んな状況で、基幹産業の少ないサモアでこのような雇用につながれば外貨獲得の為にもなるだろうとの願いからである。

### サモアについて

立憲君主制、氏族制、4酋長(マタイ)の上に大酋長(君主)のマタイ主導のきびしい規律統率、面積は三重県の約二分の一、人口は同じく十一分の一。不規則でも利用者が多いバスが不便な交通手段。土曜日は家族へのサービスで買い物。日曜日は安息日で正装での礼拝と早朝よりマタイの長男と男衆によるウム料理。

### 風俗習慣

年長者尊敬 兄弟愛(子守り) 習慣、常識による行動 助けあいの連帯活動(対害虫、ハリケーン、水害など)

次はビデオによるシニア海外ボランティア活動の紹介

私の場合 1. 上級海員免許取得への指導助言、2. 教科内容と実施計画策定、3. 教材、教科書の選定作成、4. 基礎・専門教育の指導(講義と一部討議)が要請案件で、1. システム内での事故等の探知分析能力、2. 安全確保の訓練と指導(モラルの高い人格形成、指示された事を確実に守れる人間養成に留意)。以上の目標への資料蒐集や言語・習慣の違い、相談相手の不在、予算等の種々の困難の中で毎日片道一時間、生徒と共に通学バスの中で、又教室での半日と生徒から島の風俗習慣について情報を得て、サモアの理解に努めたのだった。

各生徒も家族のため、国のために有資格者となりより良い職を求めめるために笑顔を絶やさず努力する姿に感動し、出来る限り尽くすべく真心を持って伝え、これに応えてくれるのだった。「Mr. Koide、絶対働いて家族を守るぞ」との別れの言葉を受け帰国。小さい一歩の実行が大きな一歩となり、サモアの豊かさにつながることを信じ「頑張れサモア」と声援を送りたいと思います。

---

## 第53回世界の料理パーティー

### “韓国料理をつくりました”

この9月15日、敬老の日に第53回世界の料理パーティー“韓国編”を開催しました。このたびの申し込みは受け付け開始後30分もしないうちに定員いっぱいとなり嬉しい悲鳴をあげました。

今回の献立はビビンバ、ちぢみ、大根のセンチェなどでした。ビビンバは沢山の種類の野菜や牛肉をそれぞれ調理味付けし、それを御飯の上に彩りよく盛り合わせるととても美しい一品です。ちぢみは韓国風お好み焼きでチョカンジャというたれをつけていただきます。みんなおいしいおい



しいと大好評でした。

そしてもっと嬉しいことがありました、食事をしながら皆が感想をのべたり、韓国のお話を聞いたりしてうちに場が盛り上がり全員で“アリラン”を合唱してしまいました。またリクエストで“トラジ”の唄も出て楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

まあ何時ものようにそれなりの苦勞もありましたが皆の協力で無事やり終える事が出来て感謝です。

たまにはどなたか異なったスタイルの料理パーティーをしていただければ嬉しいと希っていますのでどうか申し出て下さい。またスタッフとしてお手伝いをしていただける方も是非お知らせ下さい。

なお今春この世界の料理パーティー50回達成を記念して冊誌を出版しました。まだご存知でない方は是非一度手にとって御覧下さい、料理スタッフと関係者一同の10年余りの活動と想いのつまった一冊(800円)です。

先生達



2003年9月末日 世界の料理担当(副委員長) 中山長子

## ホームステイ 7月18日~20日 ブルキナファソってどこ？

楠木 久

【Burkina Faso】 Mr.Guillogo Gane Moussa

突然決まった今回のホストファミリー。「英語が話せるから」ということなので、まーなんとかなるだろうと思い、初のホストファミリーを引き受けることになった。

1日目：とにかく疲れていた様子のため、家族に挨拶をすませた後「ボン ニュイ」と声をかけ就寝。

2日目：午前中はジャスコで買い物。昼からは、かまぼこつくりの体験。夜はバドミントン。

3日目：午前中はアルペン、ベリーへ買い物。昼食は山中さん家にて。すると「暑いから泳ぎたい」とのことより五十鈴川で水泳となる。その後、内宮を参拝。

2日目、3日目はホストファミリー仲間の山中さんと、ステイしているセルジュさんもいっしょに行動



イスラムということで宗教・生活習慣など、言葉以上にどうしたらいいのかわからないことが多く、実際に受け入れるまでは心配していた。しかし、一緒に生活してみると、それほど気にする事もなく、3日間は過ぎていった。朝起きると普通にギロギロがいて、いっしょに食事をしてテレビ見ている。特別に何をしてもなく、したいことをして同じ時間を過ごしている。気がつくと、外国からのホームステイであることさえ忘れそうなほど、家族の一員であるかのように自然と溶け込んでいる。



言葉のことを言えば、英語に頼ってしまい、フランス語でのコミュニケーションは簡単な単語程度で終わってしまったことがやや心残り。今思えば、もっとフランス語を話せば良かったと思っている。しかし、単語程度でもフランス語が通じた時はやはりうれしかった。相手の国の母国語でコミュニケーションができた時は、自然と楽しさがこみ上げてくる。成果といえば、3日目になると、難しい表現はできないものの、簡単なことであれば意識せず英語が出てくるようになったこと。

帰国後、手紙を送った。写真とともに、ホームステイ中の感想をあらためて文章にしてみた。現地へ届くのに少なくとも2週間はかかるらしい。どのような返事が帰ってくるか楽しみに待っている。

## いせ日本語教室より

毎週木曜日午後7時から8時半までサンライフ伊勢の2階で在住外国人の方がボランティアの先生を囲み愉しく日本語を勉強しておられます。教室を訪問して勉強している方々に一言感想を書いて頂きました。以下がその概要です。

来日の機会があつてとても幸せな気分です。伊勢の人々も皆とても親切で、例えば会社の配慮でこの教室で日本語が学べることは有意義なことです。日本の言葉のみならずその文化を理解しようと努力することで、私達は日本、そして伊勢市を理解し、ひいては日中両国の文化交流を推進することになるのでしょうか。（朱洪文さん）



先生方はとても親切で我慢強く私達に接して下さるので、日本語を通じて日本の文化の理解に至り相互の交流に役立つことと期待します。（邵敏さん）

全く日本語を知らなくて来日したのですが、今は仕事又日常生活上とっても助かっています。（施海江さん）

先生たちのご指導に結構満足しています。時折のゲーム等楽しく、確かに知識を増してくれて、もっと頑張ろうとの意欲を持たせてくれるものです。（張明さん）

教室に出席することがとても有意義で、私と日本及びその文化との交流の窓口となり、お互いの信頼感を深めることになるものと信じます。  
(計利強さん)

先生方のご指導に対してはとても有り難く思っています。日本語は基礎とは言っても中国語とは相当の違いがあり、中々大変ですが、教室へ来て勉強していると気分が晴れ晴れとして楽しいです。一步一步と向上に向かうことを期待しています。  
(一研修生)

経済的な負担もほとんどなく先生も優しく立派で上手く教えてくれます。当教室の指導に感謝しております。  
(Nick Allen リバプール出身)

この教室に出席するのがとても楽しみです。先生は興味を持つように忍耐よく指導してくれるので出遅れの自分も他のひとたちに追いつくことができると期待しています。  
(Cherie Mager カナダ出身)

ボランティア先生に脱帽  
(Amanda Rosecrans フロリダ出身)

伊勢の人たちはとても親切、日本語教室でボランティア活動に励んでおられるのは素晴らしいです。  
(Paul George マンチェスター出身)

先生が身近に感じられ、教室でのレッスンが楽しく実用的な取り上げ方で助かります。  
(Jacinda Vincent シドニー出身)

---

## 「日本語をより効率よく教えるために」

いせ日本語教室 小島 洋子

日本語教育スタッフの方や日本語教育に興味をお持ちの方ならご存知でしょうが、「日本語教育能力試験」という資格試験があります。それはどういう試験かという、日本語を教える人の知識及び能力が、日本語教育の専門家として必要とされる水準に達しているかどうかを図る試験です。この検定試験の最大の難関は出題範囲の広さだと私は思っています。少しピックアップしてみますと、言語学関連、対象言語学、社会言語学、日本語文法(国文法ではありません)、日本語史など多義に渡ります。

日本語教師といっても大学で教える人もいれば、地域のボランティアで教える人もいて、それは様々です。必ずしも資格がなければ教えられないというものではないのですが、私は検定試験に挑戦するもよし、しないもよし思っています。ですから「いせ日本語教室」でも検定合格者の方もいれば、これから目指す方もいます。また知識だけでなく教え方の勉強をしていらっしゃる方もいます。

私は自分のスタイルでボランティア活動を行っています。何よりも、学習者の皆さんが「いせ日本語教室」へ来て良かったと思ってもらえることが大切だと思い、そのことをモットーにしています。

## ワシントン 全米桜祭りに参加して

尾崎行雄によってワシントンに寄贈された三千本の桜の苗木が、今ではポトマック河畔に咲き乱れてワシントンの名所になっています。現在、ワシントンでは桜の花の咲く頃「全米さくらまつり」が盛大に催されています。

4年前は多くの人たちのグループで参加しましたが、今年はイラクとの戦争のせいで数人でワシン

トンを訪れました。



### 編集後記

多度町RDF燃料発電での二度にわたる不測の事故も一ヶ月半ぶりようやく「鎮火宣言」となった。発足当初より将来への期待を担った事業との理解に反して、県知事の苦慮の程が思われる。期待の大きいだけに将来を見据えた万全の対策も考えられていた筈と痛恨の事態であった。同時に発足した大牟田市との協力体制など又県人材バンクなどの英知を集めての早急の検討出直しを願うや切。

One must sow before one can reap.  
A straw shows which way the wind blows.

編集委員：池山、片山、喜多、千田、竹中  
顧問：岩本